

令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 7月1日 / 年度末 2月27日
氏名	池田大輔
学科	国文学科
学科以外の兼務職	湖国カルチャーセンター長

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務 (何を行っているのか)

①担当科目

担当科目名	学科	学年
日本史概論	国文	1
基礎力プログラムⅠ	国文	1
古典文学講読Ⅰ	国文	1
古典文学講読Ⅱ	国文	1
基礎ゼミ	国文	1
ゼミⅠ	国文	2
ゼミⅡ	国文	2
基礎力プログラムⅢ	国文	2
基礎力プログラムⅣ	国文	2
ボランティア	国文	2

②担任制度

担任(1年生)	有	担任(2年生)	有
---------	---	---------	---

③委員会活動

運営協議会	委員	SD委員会	
研究倫理委員会	委員	地域連携委員会	
危機管理委員会	委員	入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会	委員	広報委員会	
認証評価準備委員会	委員	高大接続・連携委員会	
図書委員会	委員	保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会	委員長	教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	委員長
FD委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

\* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業) 学内代表	
協議会事務局		WG-B (地域コミュニティの活性化事業) 学内代表	
WG-D (事業管理) 学内代表		WG-C (地域を担う次世代人材の育成) 学内代表	担当

## ⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ <b>無</b>
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

## 2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】 学生の学習と大学生活の両面を中心に、学生支援に注力する。
個人の教育理念・目標	<p>本学科のアドミッション・ポリシーに基づき入学してきた学生に対し、カリキュラム・ポリシーに従って、ディプロマ・ポリシーの達成実現へ向けた教育活動を行っていく。特に日本古典文学の授業を中心に担当しているので、学生には時代を超えて普遍的な価値を持つ言語表現について自覚させ、日本人のアイデンティティや人間の根本的な課題を探求する方法や機会を提示し、自己価値・判断力・言語化能力の涵養を目指す。その際に、発問や対話を重要視し、己の知識をもとに主体的思考を形成できるような授業展開を心がけていく。</p> <p>また、学生には日常的に自己の考え文章化することを課し、教員が添削、見直しすることで、誰もが納得できる言語化能力を習得できるよう指導していく。国文学科で学んだ社会人として、恥ずかしくない素養と言語力を発揮できるよう学生を導くことを心掛ける。</p> <p>少人数教育という特長を活かし、学生には日常的に挨拶や声かけを心がけ、学生との信頼関係を構築するとともに、体調や感情の変化に気が付けるように努める。昨年度より設けられた「スチューデントアワー」には、積極的に学生と関わりを持つようにすることで、学生が日常的に、何か相談事があったときに話しやすい関係の土台を築くよう努める。</p> <p>本学国文学科最後の卒業生となる学生にとって、少しでも多くの経験と今後の糧になるような貴重な学びと体験の学習機会を提供できるよう尽力する。</p> <p>*本学科のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーについては、本学ホームページを参照してください。</p>

## 3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	<p><b>1. 「古典文学講読Ⅰ」における ICT 活用（国文学科 1 年）</b></p> <p>授業は『万葉集』を取り上げ、受講生が 2 名と少なかったため、図書館 3 階で講義を行い、講義資料は毎回配布し、適宜図書館資料を活用して進めた。また、Google Classroom をプラットフォームとして、「課題（リアクションペーパー）」を毎回、授業内容として公開した。「リアクションペーパー」の中での意見は、次の授業冒頭で振り返りを兼ねて共有した。</p> <p><b>2. 「ゼミⅠ・Ⅱ」におけるフィールドワーク（国文学科 2 年）</b></p> <p>授業は、1 年次に学習した『源氏物語』と「変体仮名」を活かした演習形式で、学期レポートは A3 用紙 1 枚のキャプションボードを作成してもらい、研究室前に展示している。フィールドワークは、源氏物語ミュージアム（京都府宇治市）・石山寺（滋賀県大津市）・紫式部公園／紫ゆかりの館（福井県越前市）と広範囲わたって実施した。</p>
授業以外 （学生支援等）	<p><b>1. 担任面談</b></p> <p>1 年生 5 名、2 年生 2 名を担当。春学期・秋学期の最初と最後に実施する担任面談では、1 年生は大学生活への慣れ、定期試験への準備と感想など大学生活における不安要素の確認を中心に行った。2 年生は、就職活動の進捗状況を中心に、相談やアドバイス等の支援を行っ</p>

	<p>た。</p> <p><b>2. スチューデントアワー</b></p> <p>本年度は、研究日と重なったために積極的に学生と関わり交流の時間を確保できなかった。参加できるときは、積極的にイベントなどに参加する。</p>
--	---

#### 4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	<p><b>1. 「古典文学講読Ⅰ」における ICT 活用（国文学科 1 年）</b></p> <p>受講人数が少なかったということもあり、毎回「リアクションペーパー」が提出されていた。また、何かあれば配点とは関係なく記入する欄を設けていたので、質問や相談を受けるなど活用することができた。</p> <p><b>2. 「ゼミⅠ・Ⅱ」におけるフィールドワーク（国文学科 2 年）</b></p> <p>フィールドワークの参加度は高く、学習面だけではなく地域での活動を楽しんでいる様子が窺えた。授業アンケートの結果では、100%の受講生が目標達成でき、興味関心を持ち、理解できたと回答していた。授業アンケートでは、全ての項目においても100%以上（非常にそう思う、そう思う）、「フィールドワークも楽しかった」「少人数で色々気楽な空気で授業を受けられたのが良かった」と満足度が高い授業であったと思われる。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p><b>1. 担任面談</b></p> <p>他県より通学する学生もいるが、1・2年生ともに失単位する者もおらず無事に1年を終えることができた。2年生は、1名就職活動中であるが他4名は全員が就職内定となった。</p> <p><b>2. スチューデントアワー</b></p> <p>研究日と重なったため、活用することができなかった。</p>

#### 5. 目標（今後どうするか）

授業	<p>授業アンケートなどから、好評かを得ているので、引き続き「リアクションペーパー」や分かりやすい授業、評価のブラッシュアップを行って柔軟に対応実施していく。グループワークの需要に関しては、全員がコミュニケーションを取り合い、協働力を高められるよう目を配り、ファシリテートしていくよう心掛ける。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>担任面談では、引き続き学生の学生生活、就職の支援を行っていく。また、日ごろから学生の様子に目を配り、心地よい学生生活を送れるようサポートしていく。</p>

#### 6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上